現地モニターだより

『持続的可能性・サステナビリティ』を求めて

端野町　和崎　陽一

このたび地域農業研究所からモニターとして、現地の様々な情報を発信する役割を委嘱された端野町で畑作を営んでいる和崎と申します。まず、私と地域の仲間が取り組んできた「端野町農業情報研究会」の活動について紹介しましょう。この組織は平成六年設立、現在一五〇名の会員で、おもにＰＣ簿記研修と作物別経営分析の二つを柱に活動しています。

経営改善策の具体化には、農業経営簿記記帳の実践が第一歩だと考えられますが、今自分が新たに「一からパソコンで簿記をやってみよう！」と決断したとしても、一人だけでは行き詰まり、その先へ進むことが困難な場合も考えられます。下手をすると「自分だけバージョン」の経理の仕方？になっているかもしれません。

しかし、地域に相談できる先輩や仲間がいれば、共に考えることにより適切な仕訳の方法や考え方・効率的な営農経営計画等への改善策・糸口がみつかる可能性が生まれてくるのです。

将来の経営像を見いだすためにも、簿記記帳データを「基礎」に置き、経営改善策の具体化・農業経営者としての自覚と想いを大切に、仲間と共に創意工夫をこらしながら、それを実践してゆくことが何よりも重要であり、さらに加えて地域社会と連携しながら多角的な行動をしてゆくことが、この厳しい農業情勢の中で、ますます必要不可欠な農業経営者のあるべき姿だと考えることができます。

また、平成七年度より行われている作物別経営分析では、コスト削減へ向けたメンバー間の技術情報の交換、さらには地域の指標データとして分析結果をまとめ、各関係機関に向けた提言・情報発信へと発展させてきました。とくに品目横断が実施されてからは、周りからの関心度も高くなっています。

一方、農業分野特有の問題として、大雨・降雹等の自然災害等の危険性を常にはらんでいます。安心して農業経営に取り組むことができ、どんな時にでも、家族経営を基本に地域全体が連携し解決していくためにも地域農業の環境整備が不可欠です。その一環として「食料づくりを地域全体で育んでいく」という意味からの食育も推進していかなければなりません。

私たちが取り組んできた組織活動を、地域農業という視点で考えてみると、個人はもとより仲間との活動として、「目標を明確に持ち、行動力と判断能力を広げていくこと！」は、時代の流れを見通し、解決策を探る上でも意義があり、①仲間と共に行動できる身近な組織、②世代を超えた交流＆連携体制、の中での双方向の情報交換こそが、地域づくりや担い手育成にもつながると考えることができます。今後とも**「しなやかな持続＝サステナビリティ」**をモットーに、地域元気力アップ！を目指して頑張りますので、皆様との交流・連携、情報交換を大いに期待しております。